

式辞

阪神間にも秋の冷気が日ましに加わり、武庫川縁のコスモスが美しく咲き誇る今日の佳き日に、伊丹市長藤原保幸様、兵庫県議会議員野口 裕様をはじめ兵庫県議会議員の皆様、兵庫県選挙管理委員会委員長武田丈蔵様、兵庫県阪神北県民局長常松貞雄様をはじめ、多数のご来賓及び保護者の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立阪神昆陽高等学校と、兵庫県立阪神昆陽特別支援学校の開校記念式典を、かくも盛大に挙行できますことを、心より感謝申し上げます。

阪神昆陽高等学校と阪神昆陽特別支援学校は、本年四月九日に開校式及び入学式を挙行し、高等学校生徒二百三十七名と特別支援学校生徒四十八名を迎え、新しい歴史を歩んでいます。十月一日の高等学校後期入学式では、新たに十三名の新生を迎えることができました。両校の計画段階から今日に至るまで、数々のご指導ご支援を賜っておりますすべての皆様に対し、衷心よりお礼申し上げます。

さて、わたくしは4月の開校式で、三つのことを宣言させていただきました。

一つ目は、それぞれの学校が、それぞれの設置趣旨に従って、充実した教育活動を展開することです。多部制単位の阪神昆陽高等学校は、生徒の興味・関心や、多様な学習ニーズに応じて、主体的に学ぶことができる教育課程を編成するとともに、全生徒が学校設定科目「ノーマライゼーション」を履修するなど、思いやりのある豊かな人間性の育成に取り組んでいます。

また、高等部単独設置で、職業科の阪神昆陽特別支援学校は、各教科・道徳・自立活動等を総合的に合わせて指導する「職業生活」や、「流通・サービスコース」「食品加工・農園芸コース」「福祉・介護コース」を実施するなど、

生徒の社会的・職業的自立を支援するための職業教育に重点を置き、取り組んでいます。

二つ目は、両校が同一敷地に設置されたというメリットを生かして、教育活動全般にわたり交流及び共同学習を行うということです。両校は、日常生活における自然なふれあいに加えて、体育祭などの特別活動や、運動部や文化部の活動を、合同で行っています。九月の阪神丹有地区高等学校定時制生徒生活体験発表大会には、高等学校生徒だけでなく、特別支援学校生徒も特別出演し、それぞれがすばらしい発表を行ってくれました。

さらに、両校の生徒が、音楽や美術、体育、情報の授業において、両校教員のチームティーチングにより、共に学んでいます。これを「共同の学び」と呼び、来年度以降は今年度の実践を踏まえ、より一層充実させていくことにしています。

三つ目は、地域に開かれた、地域に愛される学校づくりの推進ということです。両校は伊丹市池尻にあります。学校の南は尼崎市西昆陽であり、学校周辺の皆様には、生徒の登下校などで、大変お世話になっています。夏休み前には、生徒と職員全員で周辺地域の清掃活動を行ったり、県立学校体育施設開放事業により運動場を開放するなど、地域の皆様に愛される、地域に開かれた学校作りに取り組んでいます。

今後は、池尻西部自治会や宮ノ北団地自治会、池尻小学校、いけじり幼稚園、むこっこ北保育園、清流園、阪神自動車学院など、地域の皆様との連携を、より一層深めていく所存です。

以上、わたくしたち阪神昆陽高等学校と阪神昆陽特別支援学校の職員は、開校式での宣言を胸に刻みながら、両校生徒の「生きる力」を育むために、より一層充実した教育

活動に取り組んでいくことを、お誓い申し上げます。最後になりましたが、関係各位の皆様には、これまで以上のご指導ご支援をお願い申し上げます。式辞といたします。

平成二十四年十月十四日

兵庫県立阪神昆陽高等学校長兼
兵庫県立阪神昆陽特別支援学校長
尾崎文雄